

## ちゅうもん りょうりてん 注文をまちがえる料理店

### ◎まちがいを受け入れる社会

おぐにしろう (おぐにしろう) さんはNHK という日本のテレビ局で働いていました。彼の仕事はいろいろなテレビ番組を制作することです。

ある日、小国さんは新しい番組を作るために、認知症のお年寄りたちが一緒に住んでいる施設へ行きました。認知症になると、記憶力が弱くなったり、家族のことが分からなくなったりします。そこでは、そんな認知症のお年寄りたちが、いろいろな人の世話を受けながら、生活していました。でも、昼食はお年寄りたちが作るのだそうです。そして、小国さんにもごちそうしてくれると言いました。

「今日のメニューはハンバーグですよ。」と聞いた小国さんは、うれしくなりました。昼食の時間になって、小国さんはハンバーグが出てくるのを楽しみに待っていました。でも、目の前に置かれた皿の上には、ギョウザがありました。

「あれ？聞いていたメニューと違うぞ？」と小国さんは思いました。

でも、周りを見回しても、だれもびっくりしたり、文句を言ったりしている人はいませんでした。

「どうして、だれもメニューが間違っていることを言わないんだろう。」小国さんは不思議に思いました。小国さんは周りの人たちといっしょにギョウザを食べ始めました。とてもおいしいギョウザでした。食べながら、「メニューとは

ちが 違うけど、ギョウザもおいしいな。」と<sup>おも</sup>思っ<sup>しあわ</sup>て、幸<sup>き</sup>せな<sup>もち</sup>気持ちになっ<sup>て</sup>てきました。

おぐに 小国さんはもう<sup>いちど</sup>まわ<sup>みまわ</sup>りを見回<sup>し</sup>ました。そこにあるのは、みんながまちがい<sup>を</sup>受け入<sup>れ</sup>て、ギョウザをいっ<sup>しょ</sup>に食<sup>べ</sup>る、<sup>すてき</sup>な<sup>けしき</sup>景色でした。

その<sup>とき</sup>、おぐに 小国さんは<sup>き</sup>気がつ<sup>き</sup>ました。「<sup>そう</sup>か！みんなが<sup>う</sup>け入<sup>れ</sup>てしま<sup>え</sup>ば、  
まちがいはまちがいじゃなくなるんだ。こ<sup>う</sup>や<sup>っ</sup>て、まちがいを<sup>け</sup>す<sup>ほうほう</sup>方法がある  
んだ。」

この<sup>かんが</sup>え<sup>かた</sup>方を<sup>おお</sup>多<sup>ひと</sup>くの<sup>ひろ</sup>人に<sup>ひろ</sup>めたい。そして、おぐに 小国さんは「<sup>ちゅうもん</sup>注文をまちがえる  
料<sup>りょうりてん</sup>理店」というレストランをはじめることにしました。

◎「<sup>ちゅうもん</sup>注文をまちがえる<sup>りょうりてん</sup>料理店」オープン！



(Drawn by Akino SASAKI)

「注文をまちがえる料理店」は一日だけのレストランです。その日にレストランで働くのは、全員認知症の人たちです。いつもは世話をされる認知症の人たちは、この日はテーブルで注文を聞いたり、料理をおぼんの上に並べたり、お客さんに注文の料理を届けたりします。

注文がうまくわからなくて、お客さんをお願いして書いてもらう人、料理をまちがったテーブルに運んでしまう人、いろいろな「まちがい」が起こりますが、働く人もお客さんもみんな笑顔。参加した人がみんな温かい気持ちになれる、それが「注文をまちがえる料理店」です。まちがえることを受け入れて、一緒に楽しむという新しい考え方の「注文をまちがえる料理店」は2017年6月にスタートし、今では日本中、そして世界にも広がっています。

## ◎認知症を知るために

ところで、認知症は病気の名前ではありません。知っている言葉や名前が思い出せない、予定や約束など大切なことが覚えられない、歩いていても、自分が今どこにいるか急にわからなくなる、といった、社会生活にいろいろな問題が出てくる状態のことを意味します。この状態の原因の一つが、有名な「アルツハイマー病」です。アルツハイマー病になると、覚えることが難しくなります。知っている場所や人、約束の時間などがわからなくなることも多いです。体が自由に動かなくなることもあります。そして、この病気はお年寄りだけでなく、若い人がかかることもあるのです。

いま 普通にやってきたことが、突然 難しくなる。今まで慣れていた世界が  
急に複雑でわからないものになる。それはとても怖い経験です。そんな経験を  
している人の心は不安でいっぱいです。その不安を受け止めて、一緒に生活し  
ようとするやさしい社会のはじまりが、この「注文をまちがえる料理店」なの  
かもしれません。

(1539字)

(2021.4 Written by Yuki MORI)

#### <参考資料>

- ・「注文をまちがえる料理店」ウェブサイト <http://www.mistakenorders.com/>
- ・「大学生とつくる就活応援ニュースゼミ」ウェブサイト「教えて先輩！元NHKディレクター小国士朗さん【前編】きっかけは『プロフェッショナル』」  
[https://www3.nhk.or.jp/news/special/news\\_seminar/senpai/senpai58/](https://www3.nhk.or.jp/news/special/news_seminar/senpai/senpai58/)
- ・「まいにちdoda」ウェブサイト「間違えても、ま、いっか。『注文をまちがえる料理店』で見えた、ちょっと寛容な社会の姿」  
<https://mainichi.doda.jp/article/2019/01/12/1013.html>
- ・「公益社団法人認知症の人と家族の会」ウェブサイト「投稿 認知症の本人の声」  
<https://www.alzheimer.or.jp/?p=4990>

(2021.5.19 ウェブサイト確認)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典:「たどくのひろば」(<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use

this work, please indicate the source as in the example above.